

Hello, from
Around the World

ALT通信

白河で活躍するALT（外国語指導助手）を紹介！



ブルック・マクダニエル先生
(アメリカミネソタ州)

本庁舎学校教育課 内2365

子どもたちは私の家族

みなさんこんにちは。前回に引き続きマクダニエルです。今回は、学校での様子をお伝えします。

私は白一小、白二小、白三小に週1日、表郷中に週2日勤務しています。白河は小さな学校が多いですが、先生も子どもたちもみんな家族のようで、アットホームな雰囲気が大好きです。授業以外にも子どもたちと一緒に給食を食べたり、掃除をしたり、部活動のソフトテニスをしたり、毎日楽しく過ごしています。

初めの頃、生徒たちは恥ずかしがってあまり話してくれませんが、今では積極的に英語で話してくれるようになり、とても

やりがいを感じています。これからもアメリカの文化や習慣などを楽しく学んでもらえるよう、いろいろなアイデアを出しながら英語を教えていきたいです。



▲表郷中での授業の様子

英語で一言！

「You only fail if you give up!」
(失敗してもあきらめてはいけません!)

シリーズで学ぶ

白河歴史人物伝

Vol.8

羅漢山に住んだ絵師

蒲生羅漢

(1784～1866)

蒲生羅漢は白河の出身で、本名は藤田豹、のちに蒲生の姓を名乗ります。また、羅漢山人、在家菩薩などの号を名乗っています。

《谷文晁に入門》

若い頃の経歴は不詳ですが、10代の頃には江戸に出て谷文晁の下で絵の修業をしていたと考えられています。のちに白河藩主松平定信の文化事業に参画していることから、早く定信に見出され、谷文晁への入門を勧められたのかもしれない。19歳の時、定信の命により岡本茲樊・谷文一・星野文良とともに京都の石山寺に伝わる「石山寺縁起絵巻」の模写に携わっています。

《羅漢山人之伝》

現在、羅漢山の麓に「羅漢山人之伝」と題する石碑が立っています。天保14年（1843）、援助者であった鏡沼村（現鏡石町）大庄屋常松菊畦が建てたもので、羅漢の業績や人となり記されている。

ます。絵については中国の宋・元・明の古画を学び、特に仏画を得意としたといえます。また、位の高い人物にも媚びることなく、十日酒を飲んで一日絵筆をとるといふほどの酒飲みであったことなど、豪放な人柄をうかがわせるエピソードが記されています。

《晩年》

羅漢は晩年までこの羅漢山の麓にアトリエを構えて作画を続けます。文久3年（1863）に法眼の位を授けられ、その功績を認められました。83歳で亡くなり、皇徳寺（大工町）に葬られました。

蒲生羅漢筆
関帝図
(白河市歴史
民俗資料館蔵)
※1月22日(日)
まで 白河集
古苑で展示



「羅漢山人之伝」碑
(築城稲荷神社境内)

文化財課 272310